



Photo by
Hiroshi Takasugi



“ ～ アカガシの剪定 ～ ”

玄海ゆりの樹幼稚園 園長 高杉 洋史

8月に砂場の横のアカガシ(どんぐりの木)にスズメバチが巣を作りました。園長になって十四年目になるのですが、初めての経験です。このアカガシも大きくなり、枝が混み風通しも悪くなったことでスズメバチに選ばれた可能性があるので、一念発起して剪定しました。木の成長が止まる冬に切るものと思っていたら、寒くなる前がいいようで、時期もぴったりです。葉にスズメバチという黒い煤のようなシミもできたので、一石二鳥です。きつと春にはたくさんの若葉が芽吹くでしょう。今回、剪定のことをインターネットで検索したら、草花も剪定しないとひよろひよろ伸び、その先だけに花がつくので、適当に剪定して分枝させたほうがふんわりとした株に育ち、たくさんの花が楽しめるのとことを知りました。そういえば去年のクリスマスのころ目を楽しませてくれたポインセチアがひよろひよろながら子育てラウンジで緑の葉をつけています。3株のうち一株が風で倒れ枝が折れたのですが、その株の方が新しい葉が元気よく育っています。風ので偶然剪定された効果が出たわけですね。ポインセチアは九月から十一月の光の管理によってクリスマスのころ花芽がつくとのこと、このポインセチアは緑の葉のまままで年末を迎えるのでしよう。

植物によっては少しのストレスでも枯れてしまうものもあります。植物の中では強い方のサツマイモだって、苗から根が出る時期にエノコログサなどに取り囲まれると成長しません。苗を植えてからの

一か月は草取りをしてかわいがる必要があります。植物の種類によって、大事に育てないといけない時期はまちまちで、また剪定というストレスを与えないと良い結果が得られないこともあるのですね。

そういえば、子どもたちのスポーツフェスタの練習は、前半は暑かったし、特に年長さんはマーチングに体育のフォーメーション、リレーや綱引きに勝つ方法の相談や練習にと盛りだくさんでした。泣き言は聞こえてきませんでした。スポーツフェスタ間近の練習ではお昼ご飯の時間なのに綱引きの後にリレーもしようという意見が出るほどでした。立派な育ちを見せてくれました。子どもを育てている大人の方が育ちの姿を見せてもらってありがたいと言いたい気持ちです。植物の栽培も教育も奥が深い。興味が尽きません。

